2018年4月29日

福音書からのメッセージ

しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。
（ヨハネによる福音書14章19節）

神さまってどこにいるの。そう聞かれたら、みなさんだったらどう答えるでしょうか。この前、園児礼拝で子どもたちに聞いてみました。

「お空！」と言う子、礼拝堂にある十字架像を指さす子、誰かが何かを言えば、同じように繰り返す子もいます。ある子が大きな声で言いました。「神社～！」。「えっ、神社？」、思わず聞き返しました。「そうそう、神社」、「神社だ！」、他の子も続いて言います。みんな真剣です。先生たちはみなうつむいて、笑いをこらえています。「そうだね、神社にもいるかもしれないね」。少し顔を引きつらせながらも、にっこりと肯定してあげます。

そのときに、一人の子が声をあげました。「僕たちのそば」。小さな声でした。でもはっきりと耳に届いてきました。「神さまは僕たち、わたしたちのそばにいてくれる」。だれかに教わって、そう覚えたのでしょうか。論理的に考えて、そのような結論になったのでしょうか。それともそう書いてあるものを読んだのでしょうか。わたしは、こう思います。その子は、感覚的に知っていたのだと。ふとした瞬間に、感じるものがあった。そこにはぬくもりがあったということではないでしょうか。

今日の箇所で、イエス様は約束してくださいました。今日の箇所は、イエス様が十字架に掛けられる前日の出来事です。イエス様は自らが進む道をご存じであり、弟子たちにも伝えていました。弟子の一人が裏切ることも、一番弟子であるペトロが自分

のことを「知らない」と三度言うことも、全部、弟子たちに話してきました。

弟子たちの心は、ザワザワと騒いでいたと思います。「イエス様がいなくなってしまう」、そのことは、弟子たちに寂しさと恐れを抱かせました。しかし、イエス様はそんな彼らに、励ましの言葉を投げかけます。大きな約束を与えます。

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない」、つまり一人ぼっちにはしないという約束です。神さまは、わたしたちと関わろう、関わろうとしてくださいます。何とかしてわたしたちが生きる者となってほしい、神さまの前に立てる者となってほしい。神さまはそのためにイエス様を遣わされ、その血によってわたしたちの罪の身代わりとされました。そしてイエス様が再び来られるまで、一人ぼっちにしないという約束を守るために、霊を送られます。

その姿は目には見えないかもしれない。けれども、あなたがたのそばにいる。そのことを、「僕たちのそば」と言った子は知っていました。そしてわたしたちのそばにも、神さまは手を差し伸べてくださっているのです。

「神さまはわたしのそばにもいてくださる」、イエス様のこの約束を信じ、歩みましょう。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/